



『小学生が携帯を
持つことについて』



6年 渡辺佳代子

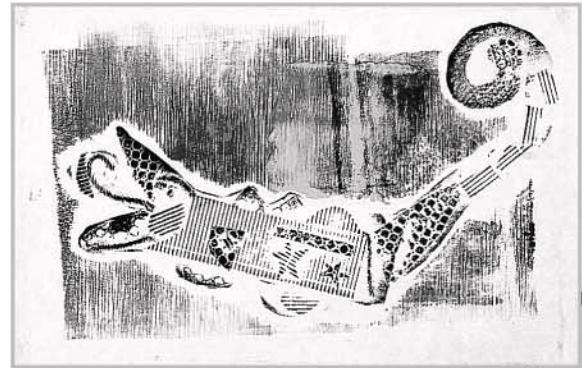
ここ二・三年、まちでは携帯電話を持つ人が増えてきました。最近、小学生や中学生も携帯電話を持つているそうです。わたしの友達も欲しいと言っていました。わたしは携帯電話を持たない方がよいと思います。

『お腹のへったトカゲ』

「ダンボールや毛糸を使った版画です。」



3年 中村直樹



その理由は、二つあります。

まず、一つ目は、最近ニュースで携帯電話関係の事件を多く取り上げているからです。そのことをインターネットで調べてみると、二〇〇〇年四月下旬のメル友殺人をはじめ、見覚えのない電話番号にかけ直しをするだけで高額な料金を請求されるワン切りなどが多発していることを知ったからです。二つ目の理由は、携帯電話が体に悪影響をおよぼすことを知ったからです。携帯電話から出るマイク波という電磁波により、眼球がこって白内障になる恐れがあるし、アメリカでは携帯電話を使っている、脳しゅようになっ

まったという例があるからです。

また、一方では、小学生が携帯を持つことに賛成の意見もありました。もし、誘拐されたり、遭難したりした時に、いつでもどこでも連絡がとれるという意見でした。現に、誘拐された時に携帯で連絡をとり、救助されたという例もあるそうです。

この討論会で、携帯電話への印象が便利でもあるし、危険で恐ろしいものなんだなということに変わりました。

また、今回の討論会で、両方の意見を聞いて、それをもとに上手に携帯電話を使うようになったらいいなと思いました。

吉川の石塔と信仰

よしかわ

今昔

庚申かのえさるに願う(その四)



正覚院庚申



須賀橋庚申

須賀橋を渡ると右は獅子舞のある榎戸、左に行きますと須賀地区になります。角に「庚申」の文字塔があると、角に「庚申」の文字塔があります。いつの頃でしょうか、土地の人が、この庚申塔の上に可愛らしい屋根を付けました。私が其処を通りますとご婦人の方が手を合わせていました。そして、塔の基壇にはお赤飯があげられていました。路傍の石塔なのですが、屋根を付けてあげたり、お参りする姿を見ると、この地区の人々はどんなに「庚申」を大事にしているのかわかります。優しさとともに素朴な信心に胸を打たれる思いがします。下内川の正覚院の境内西側のお

堂には、庚申塔が造立されています。見猿・聞か猿・言わ猿の形のデザインがスマートで、何とも言えない良いものです。この庚申には、かつて絵馬がたくさん掛けられていました。今の人たちは忘れてしまったかも知れませんが、「め・め」を反対に書かれた絵馬です。何でしょう？

眼病が治るようにと願掛けした絵馬だったので。こんにちでは、医学も発達しているので、どのような病気にも対処できますが、昔の人々は、諸々の神や仏に頼らなければ安心ができなかったのではないかと思います。

また、病ばかりではありません。特に、この『庚申様』は、この世に懸命に暮らしている人間のあらゆる願いを聞き届けてくれる神であつたのです。農饒を願う農耕の神でもありましたし、家々の繁盛の神でもありました。それゆえ、人々は庚申の夜には身を清めて神呪や念仏をあげ、やがて御馳走などをいただき、眠らずに夜を明かしたのです。

そして、その名残は今日も続いています。

吉川市文化財専門調査員
平本 英夫